



禁煙



金沢駅では、「ちょっと一服」は100円

「美しい分煙社会」の作り方

第12回 千差万別「ターミナル駅の分煙事情」 須田慎一郎 (ジャーナリスト)

文句ばかりつけて対策を示さないようではどこかの政党にも劣る。本誌は、政府や自治体が進める「喫煙者排除の論議」では分煙社会は築けないと批判してきた。しかし、「吸う人にも吸わない人にも配慮した分煙環境」という美辞麗句だけでは解決できない難問は確かに多い。コストや社会的影響、技術の壁、医学的知見の評価などを多角的に捉え、「喫煙者と非喫煙者が共生できる分煙社会」の具体例を探ってみよう。

今回は「駅」に注目した。たばこを吸う場所がない駅と分煙できる環境を供する駅とはどう違うのか。北陸を代表する「金沢駅」と、大都市のターミナルである「東京駅」「梅田駅」の取り組みを調べた。

北陸随一の国際観光都市・金沢。加賀百万石で知られる城下町には名勝・兼六園や金沢城などがあり、台湾人や中国人をはじめ外国人観光客の姿も目立つ。その玄関口である金沢駅

差が開いた。ETC割引制度の影響もあるが、駅舎をピカピカにする一方で顧客サービスを後退させた運営方針が、観光客にそっぽを向かれたことを真剣に考える必要があるだろう。

JR西日本金沢支社の広

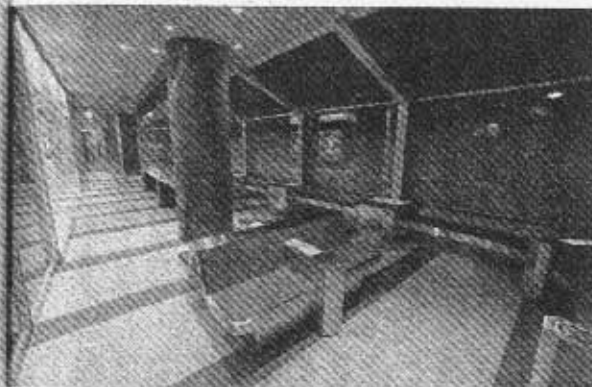
快適のコストは誰が負担するか

一方、首都の巨大ターミナル・東京駅。こちらもコンコースや在来線のホームなどに喫煙スペースはない。しかし、新幹線ホームにはガラスで囲

は、東京との間を約2時間半で結ぶ北陸新幹線が2014年度末までに開業予定で、駅舎には横断幕が貼られて地元の期待は否応なしに高まっている。

この駅には、もうひとつ大きな特徴がある。ホームや構内を見渡すと、大規模駅ならどこかにある喫煙コーナーや灰皿が全く見当たらないのである。

現在、東京から金沢に行くには、空路か、上越または東海道新幹線から特急を乗り継ぐルートが主流で、所要時間は4時間余り。J



阪急梅田駅の喫煙スペースは「おもてなし」のポリシーがあふれる

R東日本管内の新幹線や特急は全面禁煙であるため、喫煙者にとってはなかなか辛い行程に違いない。

そして通りついた金沢駅は、ホームの柱にいたるところ「禁煙」の表示がなされ、聞こえてくるのはこんなアナウンスだ。

「金沢駅構内は終日全面禁煙です。おたばこはご遠慮くださいますようお願いいたします」

駅を出ても、同駅が管理する広場などは「全面禁煙」の範囲内。100円ほど行くと、ようやく喫煙コーナーがあるのだが、

灰皿が1つボンと置いてあるだけだった。古都の玄関口として十分に豪華な駅舎とはあまりにも対照的だ。

それでも次々と喫煙者が現われてはそそくさと吸う姿が繰り返されてきた。

居合わせた地元サラリーマンは怒るといふより情

ペースに最新型の喫煙ルームが設けられている。

一部が屋外に面して開放感に溢れ、ゆっくり座って一服できるようにベンチが置かれている。始発から終電までいつでも利用することができ

「喫煙ルーム以外は全面禁煙のため、吸われる方からは『もっと増やしてほしい』、吸わない方からは『なくしてほしい』と賛否両論ですが、どちらのお客様に対しても配慮してこうなっていることを説明し、ご理解とご協力をいただいています。公表は差し控えますが、それなりのコストをかけ、双方に少しでも快適な駅空間を提供したいの思いです」(阪急電鉄広報部)

「たばこを吸う客へのサービスは低下させても構わない」と考えるか、「どちらもお客」と考えるかによって、公共スペースでも大きな差が生じている。

阪急電鉄がいうように、受動喫煙被害を防ぐ分煙機器を設置するには、かなりお金がかかる。分煙条例が

ある神奈川県内の飲食業者は「コストをかけてもお客が増えるわけではないのでムダ」と本音を漏らす。空間を仕切って排煙設備を付ければ少なくとも200万円くらいかかることされ、本格的なリラクゼーション・スペースにするには、500万〜1000万円くらいは簡単に消える。

厚生労働省は分煙工事に助成金を出すとしているが、すべての事業所、公共施設の分煙化を面倒みられるわけがない。そもそも原資は税金である。阪急電鉄の話でもわかる通り、果てしない出費はいずれ、非喫煙者から「誰のために俺たちの税金を使っているのか」と批判が出るだろう。

たばこに限らず、考え方や嗜好が違う者同士が同居する公共の場では、互いに負担と不満を容認することが必要なのだ。それを支えるのは「共生」の思想である。本来、行政や公共施設がやるべきは、利用者にそうした考えを伝えて理解を求めよう努力ではないか。

けないという表情だ。「昔はホームの端にも喫煙所があったし、駅を出たところにも何か所があったんだが、どんどん減って、今ではこんな隅っこだけ。肩身が狭いです」

国際観光都市にふさわしい美観——それが全面禁煙の理由のひとつだろう。しかし、世界の観光地で、そこまで徹底して喫煙者を排除している例がないことも事実である。一流ホテルでも空港でも、必ず、辱めを受けられない喫煙スペース。は置くのが常識だ。世界のVIPにも喫煙者は多数いるし、第一、喫煙は違法でも恥ずかしいことでもない。

金沢でも、兼六園には園内各所の休憩所そばに灰皿が置かれ、喫煙客への配慮が見られた。

金沢市がまとめた「金沢市観光調査結果報告書」によれば、観光客の交通手段は、07年まで鉄道が33.2%、自動車が27.7%だったが、08年に逆転。09年には鉄道の30.8%に対し、自動車は51.8%と大きく

ある神奈川県内の飲食業者は「コストをかけてもお客が増えるわけではないのでムダ」と本音を漏らす。空間を仕切って排煙設備を付ければ少なくとも200万円くらいかかることされ、本格的なリラクゼーション・スペースにするには、500万〜1000万円くらいは簡単に消える。